

様式 2

平成 26 年度 自己評価表【最終評価】

鳥取県立倉吉西高等学校

<p>中長期目標 (学校ビジョン)</p> <p>(1) 心身ともに健康な自立した社会人にするために、体育・德育を重視し基本的な生活習慣を確立させる。 (2) 問題解決過程を重視した授業を構築し、学習意欲を高める。 (3) 試行実践の場を活用することにより論理的思考力・問題解決能力・コミュニケーション力を高める。 (4) 社会貢献の観点に立った進路指導を展開する。</p>	<p>今年度の重点目標</p>	<p>(1) 良き生活習慣の確立。 (2) 学ぶ意味を理解させる授業の構築。(授業改革＝意識改革) (3) 人間力を高める生徒指導。 ～みんなが幸せになるために頑張れる力、それが人間力～</p>
---	-----------------	---

年 度 当 初				最 終 反 省・評 価 結 果 (3) 月			
評価項目	具体的項目	現 状	目 標 (年度末の目指す姿)	目 標 達 成 の た め の 方 策	経 過 ・ 達 成 状 況	評 価	改 善 方 策
良き生活習慣の確立	①さわやかな挨拶ができる	<p>○全体集会や、授業で分離礼の励行に取り組み、一定程度の定着が見られるなど、以前よりは礼儀正しく、自主的に挨拶ができる生徒が増加している。</p> <p>▲一方で、分離礼の徹底が不十分なケースや、挨拶の声が小さかったり、気持ちのこもった挨拶ができない生徒も見られる。</p>	<p>・校内・校外を問わず、自然に自分から気持ちのこもった挨拶をすることができ、しかも状況に応じた対応をすることができる。</p> <p>・授業等において、分離礼の挨拶がきちんとできる。</p>	<p>・教務室や進路指導室への出入りの際の挨拶を徹底させる。</p> <p>・教職員から率先して挨拶を行うとともに、ボランティア活動説明会等をととして、「挨拶」の重要性を指導する。</p> <p>・授業をととして、分離礼が自然にできるようになるまで指導を徹底する。</p> <p>・「挨拶」の励行とともに、よりよい人間関係の構築を意識した指導を行う。</p>	<p>○教室などの出入りや廊下での挨拶は概ねできている。 ▲挨拶の声が小さかったり、気持ちの入ったものになっていない生徒がある。 ▲挨拶をしない生徒へ職員が注意をすることが少ない。 ○添削など指導を願う際、相手(教員)の都合などに留意しながら願ひ出ることができる生徒が増えた。</p>	A	<p>・挨拶することの意味を適宜生徒に伝え、学校全体での意識をあげる。 ・SHR、授業、集会、部活動等における指導を継続する。 ・教員自らの挨拶の励行によりお互いの挨拶を習慣化する。 ・挨拶できていない生徒に対して、その場での徹底を全職員が意識して行う。</p>
	②身の回りの環境を整える・服装、清掃の徹底	<p>【服装】 ○定期的な各ステージでの服装検査を行っていることもあり、多くの生徒は落ち着いた服装になっている。</p> <p>▲生徒の一部にカーディガンの裾出しやスカート丈の短かさ、頭髮の染色が見られたり、学校外での服装の乱れを指摘される生徒もいる。</p> <p>【清掃等】 ○清掃の意識は高まっているが、しっかりと取り組んでいる生徒はまだまだ少ない。</p> <p>○生徒の環境保健委員による点検に取り組んだ結果、持ち込みゴミの状況に改善が見られたが、一層ゴミの分別や減量への取組が必要。</p> <p>▲普段からゴミを拾う習慣がついていない。</p> <p>▲移動教室の落書きやゴミ放置など、モラルの低下が目立つ。</p> <p>▲部室のゴミの管理が不十分で、量が多い。</p>	<p>【学校生活全般】 ・社会生活を送る上でのマナーを守り、実践することができる。</p> <p>【服装】 ・ほとんどの生徒が高校生らしい服装をしている。</p> <p>【清掃等】 ・ゴミの分別に努め、ゴミの減量化について意識した行動がとれる。</p> <p>・清掃時間はもとより、普段から整理整頓に努め、ゴミ拾いを行うことができる。</p> <p>・自主的に時間一杯清掃に取り組むことができる。</p>	<p>【学校生活全般】 ・ボランティアの事前指導をととして、社会生活のマナーを守る大切さを指導する。</p> <p>【服装】 ・指導に委ねない生徒については、多くの教職員が関わり指導を徹底する。</p> <p>・通学時の服装指導を徹底する。</p> <p>【清掃等】 ・機会あるごとに、ゴミの持ち帰り指導を徹底する。</p> <p>・清掃開始の時間を守り、清掃の徹底を図る。</p> <p>・ゴミの分別指導を徹底する。</p> <p>・部室のゴミ出し指導の機会を増やす。</p> <p>・清掃用具等の整備を行う。</p> <p>・LHR等を活用した清掃活動・美化活動に取り組む。</p>	<p>【学校生活全般】 ▲敬語で話せない生徒が少数いる。</p> <p>【服装】 ○夏服の下シャツや冬服の下からセーター等を出す生徒は少なく、ほとんどの生徒が守られた。 ○ボランティアにおいてふさわしい身だしなみやマナー・礼儀が守れた。 ▲一部の生徒でスカート丈について指導が必要であった。</p> <p>【清掃】 ▲清掃の取組は全体的に意欲的であるが、指示されないと動けない生徒がいる。 ○教室のゴミの分別状況も良好であり、ゴミの量自体が昨年度に比べ少ない。 ▲部室のゴミの分別が不十分である。 ▲ゴミの持ち帰りが徹底できていない。 ▲清掃時間外で美化に努める生徒が少ない。</p>	A	<p>【服装】 ・気づいたら見逃さず、その場で指導をする。 ・定期的な服装検査で指導を徹底する。</p> <p>【清掃】 ・清掃への取組方法を適宜指導し、率先して美化に努めることを促す。 ・部長会や顧問の指導により、部室の使用法を日頃から意識させる。 ・TEASと関連づけ、ゴミの持ち帰りや分別、減量化に努めさせる。</p>
	③時間を意識した行動 ・4点固定 ・遅刻者減 ・提出期限厳守	<p>【時間】 ○遅刻に関しては、昨年度比で約60人減少。理由のある遅刻がほとんどで、特定の生徒による遅刻が多いなど、時間を守る意識は定着しつつある。</p> <p>▲時間を意識した生活ができるようになった生徒もいるが、全体としては大きな改善は見られない。授業の終始業の時間が特にルーズになっている。</p> <p>▲「生活の軌跡」(生活時間及び学習時間調査)を活用して生活リズムの確立に向けた指導を行ったが、帰宅後の時間を有効に活用できない生徒が見受けられ、4点固定には至っていない。</p> <p>▲1日や1週間単位といった短期間の計画立案・実行が十分にできない生徒がいる。</p> <p>【提出物等】 ○提出物についての意識の高まりは見られるようになった。</p> <p>○ミッタシステム(メール配信システム)を活用することで、事前に保護者へ配布文書を知らせることができおり、生徒の忘れ忘れは減少している。</p>	<p>【時間】 ・遅刻をしないなど、時間を守る大切さが認識でき、規則正しい生活を送ることができる。</p> <p>【遅刻者目標】 回数 一人年平均1回以下</p> <p>・4点固定を日常的に実施するなど、生活リズムが整い、学習習慣が確立している。</p> <p>【提出物等】 ・全ての生徒が期限内に提出物を出すことができる。</p>	<p>【時間】 ・携帯電話等の使い方が適切なものとなるよう、保護者と連携を密にする。</p> <p>・4点固定の定着を図るため、「生活の軌跡」等で生徒の生活を検証し、面談指導を徹底する。</p> <p>・遅刻数等、生徒状況を常に把握し、タイムラグのない指導を心がける。</p> <p>・遅刻を繰り返す生徒には、その都度声かけをし、家庭にも連絡を取るなど、生活の改善を促す。</p> <p>【提出物等】 ・全ステージにおいて、提出物の意義を指導し、提出の徹底を図る。</p>	<p>【時間】 ○遅刻について随時指導を行った結果、全体的に遅刻者は少なかったが、遅刻者目標達成には至らなかった。(一人年平均1.3回) ○全校集会の集合時間は守られた。 ▲ステージによっては、特定の生徒の遅刻が目立ったり、年度目標に至らないステージがあった。 ▲4点固定を実践している生徒に限られている。 ▲授業始業の意識が低く、始まっても授業の用意ができていない生徒がいる。 ▲部活動引退後、平日においては受験生として安定した学習習慣を構築できるものも増えたが、休日においては、家庭において望ましい学習習慣が構築できない生徒が多数あった。(S3)</p> <p>【提出物】 ○提出物が9割以上の生徒が期限内に提出できている。 ▲期限内に提出できない生徒は固定化されている。 ○ミッタシステムが提出物の保護者への周知に有効であった。</p>	B	<p>【時間】 ・遅刻、提出物ともに、年度始めにおいて約束事の確認、徹底を行う。 ・遅刻した生徒の保護者との連絡を密にして指導を行う。 ・指導が必要な生徒にはタイムラグのない指導を心がける。 ・生活の軌跡を活用した個人面談を通して指導する。 ・授業の準備をしてから始業を待つことを徹底し、意識を高める。</p> <p>【提出物】 ・課題の提出状況を成績に反映させることで、意識を高める。 ・課題については教科との連携を密にし、指導を継続して行なう。</p>

年度当初			最終反省・評価結果(3)月				
評価項目	具体的項目	現 状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
学ぶ意味を理解させる授業の構築(授業改革=意識改革)	①授業改革の推進 ・生徒主体の授業 ・思考を促す授業 ・分かる授業	<p>○昨年度の授業研究会で、指導助言者から取組が授業研究本来の姿になってきたとの評価をいただくなど、教職員の意識も変化し、授業にも工夫が見られるようになってきた。</p> <p>○授業改革推進チームを立ち上げ、授業研究や生徒の現状について検討し、授業研究会などに繋げている。</p> <p>○ステージ集会等の機会に授業を活用する意義や有用性を指導、授業に取り組む姿勢が改善された。</p> <p>○授業アンケート結果では、生徒も授業の変化を意識して授業を受けている。</p> <p>▲落ち着いた学習する雰囲気が出てきたが、依然として授業に取り組む姿勢・課題提出状況とも特定の生徒の意欲が低い。</p> <p>▲積極的に活動しようとする姿が見られる一方で、生徒の主体性にバラつきがあったり、発言内容が乏しいものも多い。</p>	<p>・授業研究会の時だけでなく、日常的に相互に授業参観を行う。</p> <p>・生徒を主体とした授業構築ができている。</p> <p>・学びあうことのできる生徒が増加している。</p> <p>・生徒が目標を持って、主体的に授業に取り組むとともに、自ら思考し、論理的に自分の意見を言うことができる。</p> <p>・生徒が学ぶ過程を大切にし、学術的な思考能力を備えている。</p>	<p>・授業を充実させるため、教材研究の時間を確保できるよう業務改善に取り組む。</p> <p>・校内での研究授業を継続し、より充実した授業の実践に取り組む。</p> <p>・授業アンケートをとおして、授業改革の推進を図る。</p> <p>・生徒に自習の方法を指導し、学習に主体的に取り組む生徒を育成する。</p> <p>・「授業」第一の姿勢で臨み、教職員、生徒とともにその意識を喚起する。</p> <p>・先進校視察をとおして授業改革の推進を図る。</p> <p>・記述・論述する機会を増やし、論理的思考する習慣をつける。</p>	<p>○生徒が主体的に授業に向かう姿勢は全学年で向上している。</p> <p>▲課題・小テストの準備と部活動に時間を費やし、プラスの活動ができていない。</p> <p>○生徒に発言を促したり、論述する授業を心がけており、一定の成果は上がってきている。</p> <p>▲選択授業が多く、自由に発言する雰囲気を作ることが難しい。</p>	B	<p>・機をとらえて「授業第一」の姿勢の重要性を説き、より一層高い意識の喚起を促す。</p> <p>・授業内での教えあいの時間を意識して確保する。</p> <p>・授業研究会においてノウハウを共有する。</p> <p>・授業で怠慢なく発言できる雰囲気をホームで高める。</p>
	②家庭学習時間の確保 ・学習意欲の喚起	<p>○家庭学習時間については各ステージとも昨年度よりも改善。</p> <p>▲「生活の軌跡」を活用して生活時間管理を自分でマネジメントできるように取り組んでいるが、帰宅後の時間を有効に活用できない生徒が見受けられる。</p> <p>▲考査前だけの学習や課題を提出するだけで満足している生徒もおり、学ぶ意義について十分に認識できているとは言えない。</p> <p>▲課題提出は多少改善されたが、課題の意味が理解できていない生徒が多い。また、課題未提出者や追試験受験者が固定化しているのが現状。</p> <p>▲授業改革と意欲喚起との結びつきがまだ弱い。</p> <p>▲学習企画(学力向上)委員会が学力向上や学習意欲喚起に向けた検討を行っているが、成果の学がするような具体的方策を見出し切れていない。</p> <p>▲各生徒の不得意科目についての対策が不十分なところがある。</p>	<p>・授業を中心に予習・復習を行い、一定の家庭学習時間が確保できている。(5割以上の生徒)</p> <p>S1・2 : 2時間以上</p> <p>S3 : 3時間以上(部活動引退後は5時間以上)</p> <p>・学習目標を明確に持ち、積極的に学習する生徒が増加する。</p> <p>・生活時間を検証し、生活時間の有効利用を図ることで、学習時間の確保に努める。</p>	<p>・携帯電話等の9時以降の自粛を粘り強く指導する。</p> <p>・模範的生活習慣を提示し、生活の軌跡を確実に記入させるとともに、生活の軌跡を活用した面談をとおして、時間と生活の管理を意識させる。</p> <p>・小テストをはじめ、考査に対する準備を徹底させる。</p> <p>・4点固定の観点から、学習の始まるの時間を固定させるよう、家庭への協力を依頼する。</p> <p>・生活時間を検証し、生活時間の有効利用を図ることで、学習時間の確保に努める。</p> <p>・達成感、自己肯定感を得られる授業の構築に努める。</p> <p>・提出物を期限内に提出することについての意義を繰り返し理解させる。</p>	<p>▲S1・2の家庭学習時間が少ない。</p> <p>S1: 2時間以上の生徒24.3%</p> <p>S2: 2時間以上の生徒20.5%</p> <p>○S3の家庭学習時間は7月までは少ないが、その後は学習会や大山会宿を通し、学習が軌道に乗ってきている生徒も多数みられ、2学期からは、家庭学習時間は平均5時間以上確保した。</p> <p>S3: 総体以降5時間以上の生徒55.7%</p> <p>○テスト前に勉強用プリントによる工夫で得点率の上った科目がある。</p> <p>▲生活の軌跡を利用して、自分の生活を見直そうとする生徒が限られている。</p> <p>▲一部で将来の目標が見えず、学習に結びついていない。</p> <p>▲課題の提出状況は概ね良好だが、学力向上に結びついていない。</p>	C	<p>・生活の軌跡を活用した個人面談を行う。</p> <p>・課題の適切量をステージが管理し、家庭で復習しやすいプリントを配布する。</p> <p>・ステージと教科が連携し、S2時のO学期、部活引退期、夏季休業など、その時期までにつけておきたい力等を授業や課題とリンクさせながら提示し、受験期のイメージと中期目標を持たせる。</p> <p>・本校S3生自主学習の取り組みを低学年に伝え、学習に対する意欲を喚起する。</p>

年度当初				最終反省・評価結果(3)月			
評価項目	具体的項目	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策	経過・達成状況	評価	改善方策
人間力を高める生徒指導	①キャリア教育の充実 ・チャレンジグループ活動の充実	<p>○推薦図書のとおり大学の教授及び卒業生による指導により、探究活動を深めることができています。</p> <p>○S1での講演会をとおして、働くことや学ぶことの意義などについて理解を深めることができています。</p> <p>○S2でのフィールドワーク関西研修では、事前学習を計画的に実施したことで、充実した研修を行うことができています。</p> <p>○多くの生徒がボランティア活動にも参加し、社会性を自主的に高めている。</p> <p>○チャレンジグループ活動における個人記録により、活動のねらいを焦点化することができています。</p> <p>○各ステージとも進路選択とチャレンジグループのミスマッチは減り、生徒の進路選択の一助となっている。</p> <p>○自分と社会との関わりを意識した生徒が出てきた。</p> <p>▲チャレンジグループ活動は充実してきたが、中にはまだ受身的な生徒もいる。</p>	<p>・自分と社会との接点を意識し、社会全体や地域に貢献したい意思を強く持っている。</p> <p>・ボランティア活動に積極的に参加し、社会性及び進路意識を高めている。</p> <p>・生徒が特別授業や課外授業に積極的に参加している。</p> <p>・生徒がオープンキャンパス参加や志望校調べなど、進路について積極的に考え行動している。</p> <p>・学校におけるパイオニアとしての自覚を持ち、意欲的に学校行事等に参加している。(パイオニアホーム)</p> <p>・チャレンジグループ活動をとおり、自らの使命を明確にし、将来、社会に貢献できる力を身に付ける。</p>	<p>・利他心の涵養を図るため、ボランティア活動への参加を奨励する。特にS1、2生に早期からのボランティア活動への参加を奨励する。</p> <p>・生徒の向学心を喚起するため、有用な情報を適宜発信する。</p> <p>・フィールドワーク関西研修を含め、チャレンジグループ活動をより充実させることで、生徒の進路意識の喚起を促す。</p> <p>・プレゼン型の面接をより推進し、生徒の視野を広げ、将来設計を描かせる。</p> <p>・新聞や図書館資料等、情報源の有効活用方法を具体的に指導し、探究を深めさせる。</p> <p>・オープンキャンパスやシンポジウムへの参加等、大学の教育力を有効活用する</p>	<p>【ボランティア】 ○延べ136名の生徒がボランティア活動に参加した。鳥取大学のオープンキャンパスで大学での学びをイメージできた。 ▲ボランティアを行った生徒への事後指導が十分にできていない。 【チャレンジグループ活動】 ○チャレンジグループ活動での社会人の講演により進路意識を持たせることができた。(S1) ○チャレンジグループ活動の個人研究の進捗状況をこまめに確認し、研究に対するアドバイスをを行うことで活動の充実と生徒の意欲を喚起した。(S3) ▲社会的知識が不足、社会に対する関心が希薄な生徒が多い。 ○進路講演会を通して生徒や保護者に最新情報を提供した。 ▲教員にチャレンジグループ活動に取組むための余裕がない。 【パイオニアホーム】 ○パイオニアホーム企画の計画が遅れたため、一部夏休みを活用できなかった。 【図書館活用】 ○フィールドワーク関西の事前活動として図書館を活用して情報収集し見学の視点を明確にできた。 ○県立図書館・博物館の見学を実施し、進路や文化活動の視野を広げた。</p>	A	<p>【ボランティア】 ・ボランティア、オープンキャンパスの意義を説明し主体的な姿勢を育てる。 ・ボランティア活動は、早期(S1、S2時)の参加を呼びかける。 ・ボランティアの事後指導を丁寧に行う。 ・ボランティア専用の掲示スペースを設ける。 【チャレンジグループ活動】 ・チャレンジグループ活動における社会人講師との交流を通して視野を広げていく。 ・S3時のチャレンジグループ活動は、受験勉強と並行して行われるので、計画や進捗状況のこまめな確認を行う。 ・チャレンジグループ活動の主幹となる分掌を設け、研究方法を研究し、職員の実質向上に努める。 【パイオニアホーム】 ・年度当初早い時期にパイオニアホーム育成のための会議を持つ。 【図書館活用】 ・先進校視察や新聞や図書館など資料の活用をはかる。</p>
	②進路指導の充実 ・明確な将来の目標設定 ・進路選択への意欲喚起	<p>○必要に応じて進路面談を実施し、進路目標設定や修正を適宜実施するよう取り組むとともに、進路実現に向けて考え等の意義、重要性を指導した結果、生徒が積極的に取り組むようになった。</p> <p>▲志望理由書については、大学研究が十分でないため、「借り物」の志望理由書になっているケースが多い。</p> <p>▲具体的な進路決定が遅かったり、受験の終盤になってから初めて「本気」になる生徒が多く、さらなる指導の徹底が必要。</p> <p>▲受験(特に推薦の面接・小論文)に必要な専門的知識が不十分な生徒が多い。</p> <p>▲担任と副担任との連携をさらに図るとともに、プレゼン型の進路指導の研究を深める必要がある。</p>	<p>・国際的視野に立って、自らの将来を考えることができる。</p> <p>・自分の進路設計を早期に持って、その実現に向けて意欲的に取り組むことができる。</p> <p>・将来を意識し、上級学校等における「学び」に向けた行動をしている。</p> <p>・「行くことができる」ではなく「行きたい」「なりたい」という意識を持ち、その実現に向けて努力を厭わない姿勢を有している。</p> <p>・ボランティア活動やシンポジウム等に積極的に参加し、自分と社会とを結びつけようとしている。</p>	<p>・チャレンジグループ活動で、国際的に貢献している方を招き、国際的な視野を広げさせる。</p> <p>・プレゼン型の面談を充実させ、進路目標を早期に設定させる。</p> <p>・全国や海外で活躍されている先輩を招へいし、目標設定の一助とする。</p> <p>・日々の教育活動の中で、小さな成功体験を積み重ねることで、活動意欲を喚起する。</p> <p>・チャレンジグループ活動や講演会等をとおり、見聞を広めさせ、進路選択の幅を広げる。</p> <p>・「学び」や進路選択に関する情報提供を積極的に行う。</p> <p>・面接など折に触れ、進路指導室利用を呼びかけ、利用を促進する。</p> <p>・教職員に対する進路指導研修を行うとともに、進路指導に関する情報共有を行う。</p> <p>・進路についての研究を、ステージ3回・キャリア支援グループを中心に、生徒に説得力を持った指導を実施する。</p> <p>・進路研修の一環として、他ステージの進路検討会へ積極的に出席する。</p>	<p>○進路講演会、鳥取大学連携事業を活用し、進路選択の一助となった。 ○西高祭や球技会など生徒主体の行事が主体性を育み、成功体験を積んでいる。 ▲低学年で明確な進路目標の設定ができている生徒が少なく、推薦など安易に進学を考えている生徒が多い。 ○S3大山勉強合宿に95(149名中)名が参加した。 ○生徒との面談を高い頻度で実施できた。結果、綿密な生徒の目標や気持ちの把握や、適切な進路指導ができたため、比較的スムーズに出願へと移行できた。(S3) ○国立一般試験出願数延131名(前年88名)で、最後まで受験に向かう生徒が多くなった。 ▲教職員の進路研修が十分でない。 ○進路と図書が連携して資料収集情報提供を行っている。 ○朝読書、読書教室を実施して本への関心を高めた。 ○国際貢献講演会は、講師の実体験を交えた内容で生徒には大変刺激となった。</p>	B	<p>・継続して緻密な面談指導を行い、生徒の目標設定に関わるアドバイスや、挑戦すること、自らを高めることの大切さを合わせて進路指導をしていく。 ・各ステージがキャリア支援グループと密な連携をとり、志望校の情報など共有し、生徒へ還元する。 ・面接、小論文指導など全校での進路研修を充実させる。 ・教科担当とホーム担当の連携を強化させ、生徒への対応の共通理解を図る。 ・生徒の学力指導に力を入れて、一般入試、推薦Ⅱで合格できる生徒を増やす。</p>

○：改善が見られ、良好な現状

▲：今後、改善が必要な現状

評価基準 A：十分達成 B：概ね達成 C：変化の兆し D：まだ不十分 E：目標・方策の見直し

【90%】

【80%】

【60%】

【40%】

【30%】